



松子さんと松太郎さんの『ユニット暮らし』

第三話 『東町1丁目ユニット』日々の暮らし の巻

こんにちは。S荘『東町1丁目8番地と9番地』在住の高萩松太郎と松子です。

入居から1ヶ月が経過し、東町1丁目の暮らしにも慣れてきました。
このひと月を振り返りますと、さまざまな驚きや学びがありました。

最初の一週間は、新しい環境に慣れることに精一杯でしたが、徐々に自分のペースがつかめました。ただ、住まいは変わりましたが、生活ペースはほぼ変わらないためストレスは感じませんでした。むしろ暮らしの仲間が増えたこと、日中は馴染のスタッフさんがお世話をしてくれるので安心感の方が強いかなと思ったくらいです。

二週目に、看護課長のSさん、ケアマネジャーのNさん、管理栄養士のNさん、機能訓練指導員のYさん、介護職員のYさんが訪れ、ケアプラン原案（施設サービス計画・栄養ケア計画・個別機能訓練計画・24シート）の説明を受けました。ケアプランについては入居前まで在宅サービスを受けていたので理解はできましたが、『24シート』については初めてでした。24時間軸で、私の暮らしぶりに合わせたサポートが記されており、一人ひとり異なるケアプランであることに感心しました。

～ユニットには日課がありません。一人ひとり生活ペースが異なるからです。
あるとすればその方の日課です。～



N ケアマネジャー



N 管理栄養士



Y 機能訓練指導員



Y 介護職員



S 看護課長

三週目ともなると、同じユニットの皆さんのお好きな事や生活ペースも何となく分かってきましたので、交流のタイミングや内容もつかめるようになりました。

例えば、7番地の春さんは、朝夕にはベランダのプランターのお花に水やりをされますし、2番地の花さんはご飯の盛り付けをしてくださり、メンバーのご飯の量はしっかりと把握されています。5番地の昭さんはお部屋で毎日晚酌をされますし、4番地の町子さんは時間があればどこででもご趣味の編み物をされています。1番地のテルさんは、ほとんどお部屋にこもりきりでテレビを観て過ごされています。7番地の道子さんは、ご自分の方からはお話にならないのですが、リビングに居られることが多く、静かに過ごされています。6番地の茂雄さんも口数は少ないですがお風呂がお好きで、S荘は温泉が出るので入浴の日が楽しみだそうです。

介護をお願いするようになっても、自分らしく暮らせるってうれしいことですね。

～ 意向・好みは皆それぞれです ～



四週目に入り、私たちの生活パターンも安定してきました。思えば、一日の過ごし方は、自宅での生活とほとんど変わりません。違っていることは、住まいと同居者の構成位でしょうか。

職員さん達も、全て私たちの暮らしぶりや助けて頂きたい事やそのタイミングを丸暗記しているように感じられるほど自然です。しかも忙しそうにバタバタしていません。

生活支援課長のSさんがおっしゃっていた「私たちは、ユニットケアという手法を用いて『個別ケア』を目指しています。

そのためには介護職員をユニットに固定配置し馴染の関係で支援させて頂きます。何故なら50人の入居者さんを25人の介護職員が担当するより、10人を5人で受け持つ方が一人ひとりの入居者を理解し得ると考えているからです。」という言葉の意味が分かりかけてきたように思います。

 イラスト画像は AIAI (Copilot) 作です



S 支援課長

第四話は
『東町1丁目ユニット』
暮らしを楽しむ
の巻です 

